

遺品整理専門企業のパイオニア 相続相談、不動産売買など多角化

キーパーズ(有) [東京都大田区]

■「天国へのお引越しのお手伝い」をキーワードに

映画、テレビドラマで遺品整理業を周知

日本初の遺品整理専門企業として知られるキーパーズ(有)。

遺品整理は、社長の吉田太一氏が着想した事業である。

吉田氏は1994年に吉田運送を創業（99年吉田物流株に改組）し、引っ越し事業を行なうなかで、不用品を譲り受けたことをきっかけに、リサイクル事業にも乗り出す。そしてある引っ越しの見積り依頼で大阪市内マンションを訪ねると、東京と横浜に住む姉妹それぞれの自宅へ数点の家財の運送依頼を受けた。それ以外の残っていた家財については、リサイクルショップに引き取ってもらうと聞き、吉田氏がすべて対応できる旨を伝えると、一度で済んだことで非常に喜ばれたという。この依頼は、東京と横浜にそれぞれ嫁いだ2人の娘が亡くなった父親の遺品整理のために大阪に来ていたことがわかった。その後吉田氏は遺品整理の事業化に向けて準備に入った。

そして葬祭関連事業者に対して事業説明のメールを送付したところ、仏事ギフトの総合商社セキサー社長（当時）の石原正次氏が興味を示し、数回の打合せを経て石原氏が会長、吉田氏が社長という体制で2002年にキーパーズを設立した。

セキサーが名古屋市にあった関係から、近隣市である小牧市が創業地となっている。そして創業からわずか7か月後には東京支店を開設し、大阪支店、福岡支店と順調に支店展開を図った。しかしながら死後数週間経って発見された故人の遺品整理を行なうこともあり、求人には苦労したという。そこで仕事の理解を深めてもらおうと、作業の様子を綴ったブログを発信。それを目にした出版社からの打診により、『遺品整理屋は見た!』（扶桑社）を上梓（06年）。この本がきっかけで入社した社員が多数いるという。その後11年にはテレビドラマ化もされた。そして同じ11年にはキーパーズがモデルになった小説『アントキノイノチ』（さだまさし著）がテレビドラマ化と映画化され、映画は第35回モントリオール世界映画祭

● キーパーズ(有)の概要 ●

所在地●東京都大田区大森本町2-4-22
TEL●03-5767-5222
FAX●03-5767-5223
設立●2002年
代表者●吉田太一
<http://www.keepers.jp/>

「おひとりさまでもだいじょうぶノート。」は、希望者に無償配布しているエンディングノートで、累計17万部にも達している



でイノベーションアワードを受賞した。

■遺族の煩悶をワンストップで解決

12年に本社を東京に移した同社は、北から札幌支店、釧路支店、東京支店、金沢支店、名古屋支店、大阪支店、福岡支店、北九州営業所の国内8拠点を設けて全国対応が可能。加えて韓国・釜山に韓国支店、中国・福州市に中国連絡事務所を設けている。

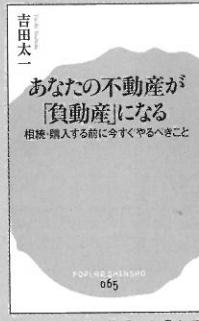
日本ペンクラブ会員でもある吉田社長は、多数の著書を執筆。『私の遺品 お願いします。』（幻冬舎）、『いつか“遺族”になる時のために』（長崎出版）など、海外での翻訳版を含めると20作近くにもなる。また、連載も多数抱えているほか、自治体、社会福祉協議会、NPO法人、大学などから招かれての講演も年間30本以上行なっている。そしてエンディングノート「おひとりさまでもだいじょうぶノート。」の無償配布を続け、発行部数は累計17万部に及ぶ。こうした活動は、「孤立死をなくしたい」との想いからで、人ととのつながりを大切にしうどう生きるかを考えるきっかけになればとしている。

同社は、グループ企業と一体となり、遺品整理に関連するワンストップソリューションが特徴である。『アントキノイノチ』で登場した遺品整理会社「クーパーズ」を事前整理のブランドとして展開。そしてリサイクル品の買取りから不要な家財道具の引取業者手配を行ない、相続手続き・遺産相続は「サムライ業ナビ」により、パートナー関係にある司法書士・弁護士・税理士などの士業を紹介。遺品については無料合同供養サービス、布団供養サービス、形見分けの全国配達、そして室内の清掃・消毒・死臭の脱臭。さらには遺品整理のための保険まで手がけている。乗用車・バイクについては廃車手続き代行、不動産については売買までを行なっている。ちなみに吉田社長は宅地建物取引士でもある。

競合会社が多数出てきているなかで、全国対応とこれらの多岐にわたるサービスを行なっているところはない。遺品整理のパイオニアであり、オンリーワン企業でもあるのがキーパーズの強みである。



『遺族1万人の後悔から学ぶ 葬儀・相続・遺言の万全ガイド』(双葉社)



『あなたの不動産が「負動産」になる 相続・購入する前に今すぐやるべきこと』(ポプラ社)